令和４年度　小中野小学校　学校だより　第１０号　　令和４年１２月２３日

ちぐさ咲く　みち

ポインセチア

子どもの時に読まないと…　に親しむ冬休みに！

校 長　花 生　典 幸

明日からいよいよ冬休みです。

夏休み明けから今日まで，保護者・地域の皆さまからたくさんのご支援とご協力をいただいて，「学習発表会」や「マラソン大会（今年から本格開催です）」「参観日」など，さまざまな場面において大きな成果を上げることができました。本当にありがとうございました。

コロナの感染対策に細かく気を配りながらの毎日でしたが，子どもたちは不平を言うことなく，今自分たちががんばるべきことをしっかりわきまえながら，毎日元気に登校し，楽しそうに，また前向きに学校生活を送っていました。その一人一人のがんばりと努力にも拍手を送りたいと思います。

数学者の藤原正彦（お父様は作家の新田次郎さんです）先生は，【どんな勉強も国語が基本である】を信条にされているそうです（数学者なのに，“国語が一番”とおっしゃるユニークな先生です）。

……　国語はすべての勉強の土台です。社会でも理科でも，私の専門の数学でも文章題で必要です。考えをまとめるのに国語は欠かせません。人間は言葉を使って考えるからです。そこで一番大事なのは読書です。

……　私は小学生の時に「クオレ物語」という本を読みました。この中に，ガルローネという少年が出てきます。貧しい行商人の息子がいじめられた時，ガルローネは力づくで彼を助けます。私は感動して，「弱い者がいじめられていたら助ける」と決めました。それは今も心に生きています。**「卑怯者は許さない」とか，「困っている人を思いやる」という気持ちは，あの時の読書の感動がつくってくれたものだと思っています。本の中には，子どもの時に読まないといけない本があるんです。**

藤原さんは続けて，読書を通して得られる感動は，**〈情緒を養う〉**と述べておられます。他人の悲しみに寄り添い，ともに悲しむ。他人の喜びに共感し，一緒に喜ぶ。故郷を懐かしむ。人の世のはかなさを感じ，美しいものに心を動かされる……**それがAI（人工知能）には決してできない，人間だけがもつ素晴らしさ**だというのです。

なぜわたしたちに読書が必要なのか，子どもの頃によい本と出会うことがどうして価値をもつのか，この藤原先生の言葉がすべてを物語っているのではないでしょうか。

明日から始まる冬休みは，読書に親しむ（児童・保護者アンケートによると，家庭での読書の習慣づくりが課題という結果も浮き彫りになりました）には最適の時間です。心に感動が残るよい本たちと，ぜひたくさん出会ってほしいと思っています。

どうぞよいお年をお迎えください。